

# 生体情報を呈示する婚活イベント支援システム Anemone の開発

絵空 摩耶\* 岩本 拓也\*†

**概要.** 日本の生涯未婚率は上昇している。独身に留まっている大きな理由の1つに「適当な相手にめぐり会えない」があげられており、お見合いパーティなどの婚活イベントの人気の高まっている。婚活イベントでは短時間で複数のお相手と交流できるが、その分コミュニケーション量が減少する。過去の調査では、婚活イベントなどで口説かれたとしても、相手が真実を述べているか不明確のため不信感を感じるケースが存在している。そのためイベント後にも会いたいを思う相手を判断に困るケースが考えられる。そこで本稿では婚活パーティなどの出会いの場で、相手を選ぶ際のサポートを目的とした生体情報を呈示する婚活イベント支援システム Anemone を提案する。

## 1 はじめに

日本の生涯未婚率は上昇している。独身者の多くは結婚を行う意思がないわけではなく、「適当な相手と出会っていない」ことが原因で結婚をしていないという調査結果がある[1]. 恋人や既婚者がいる人々がパートナーと出会うきっかけで多かったのは「学校」、「職場や仕事の関係」そして「友人や兄弟を通して」である[2]. これらの特徴は自身のコミュニティ（職場・家庭）からきっかけが誕生している。つまり身近で恋人ができなければ、出会いのきっかけを作ることが困難であることを示している。

出会いを提供するサービスは日本にも広く普及している。オンラインデートは多くのユーザとwebサービスを通して出会うことができ、オフラインの婚活パーティなどは直接対面し、会話を楽しむことができる。婚活パーティの基本的な仕組みは、パーティが開始されると、男女が机を挟み着席し、決まった時間(3分~)内でお互いのプロフィールシートを見ながら会話をを行う。時間が来ると一方が机を移動し、次の相手と会話をを行う。規定の人数との会話が終了すると、主催者から渡された”カップリング希望シート”に気に入った相手を数名記載し、相手も自身の名前を記入しているとカップリングが成立し、連絡先の交換が認められる。

特に婚活パーティはその名の通り、真剣な交際を求めるユーザに利用され、外見だけではなく、会話の内容などから自身に興味を持ってもらう必要がある。しかし、魅力的な相手に「素敵なお方ですね」と声をかけても、サービスの性質上真実と思えず不信

に感じるユーザも少なくはない[3].

そこで本稿では婚活イベントなどの出会いの場に着眼し、相手を選ぶ際の不信感を払拭することを目的として、カップリング支援システム Anemone を開発した。

## 2 関連研究

これまで行われてきた Dating に関する研究の多くは遠隔地にいる恋人たちのコミュニケーション支援に集中していた[4]. また、online dating に関する研究も最近になり活発になっている[5]. これらは出会う前と交際後の支援であり、交際する可能性がある人々を支援する研究は少ない。

第二著者の岩本は過去に同様の問題を解決するために予備実験とシステム開発を行っている。予備実験では言葉とは違い、コントロールが難しい生体情報を呈示することで、参加者の信頼関係を構築するという仮説を検証した。実験では初対面の男女を対面させ、心拍計を身につけさせた。被験者の前にモニタを設置し、互いの心拍情報を見れるようにしたが、呈示した情報は擬似心拍で、実験者が被験者をランダムに抽出し、擬似心拍情報を激しく表示させた。その結果、相手の心拍が早くなることで、自身に対しての好意と錯覚するユーザが多く、相手に対する好意が上昇した[3]. そこで次に自身の生体情報を呈示し合う Lovable Couch を開発した。Lovable Couch とは緊張状態を LF/HF から推定し、一定の値を超えると LED を点灯させ、互いの生体情報を見せ合うシステムである。実際に初対面の男女に利用してもらったところ、被験者から「先に光るのが恥ずかしい」、「相手の情報は見たいけど、自身のは見せたくない」という意見がでてきた。そのような羞恥心を取り除くため本稿では Anemone を提案する。

Copyright is held by the author(s).

\* 株式会社Diverse, † 北陸先端科学技術大学院大学

### 3 Anemone

#### 3.1 システム概要

本システムは婚活パーティなどの出会いの場で、不信感を払拭することを目的とし、生体情報を相手を選ぶ際の新たな指標として用いる婚活支援システムである。システム名である **Anemone** は実在する花が由来となっており、赤色アネモネの花言葉は「君を愛す」である。

ユーザは **Anemone** を挟み対面で着席し、センサ部に指を置く。両ユーザの生体情報に応じて、**Anemone** が成長する。開花すると光の演出が行われ、満開になった場合は花を取ることができる。事前に花に連絡先を書いておき、男性から女性に「愛の花が咲きました」と渡すことも可能になる。時間内に満開になることができなければ、花はしばみユーザは座席を移動する。

#### 3.2 システム構成

本システムのシステム構成図を図 3 に示す。**Anemone** はセンサ部と花瓶部に分類される。センサ部には心拍情報を検出するために LED 光方式の心拍センサを設置している。検知された値が一定の閾値を超えると、花瓶部に設置されたアクティブサスペンションが上昇し、花を押し上げ、開花させる。開花したことを通知するために花瓶内の LED が点灯する。時間内に満開しなかった場合はアクティブサスペンションが下降し、花が蕾に戻る。

#### 3.3 今後の展望

今後は、過去の研究で利用された生体情報の値[3]を参考に花が開花する生体情報の値を探索する。その後研究室実験を繰り返し、最終的に実際のサービスでの利用を目指す。

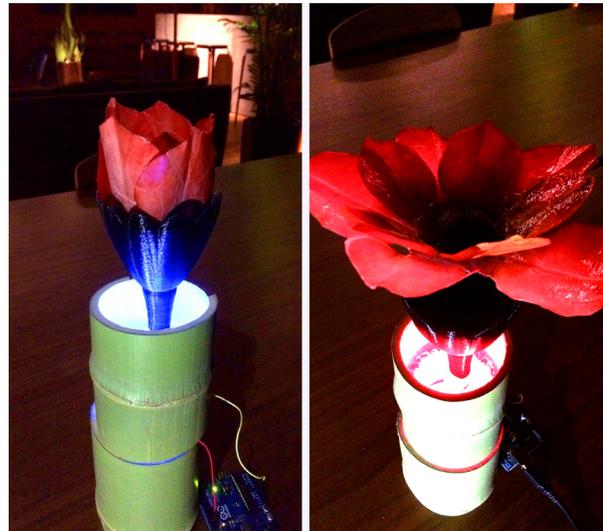
生体情報から好意の推定を行うことは非常に困難であるために、好意ある人に好意を伝えるシステムではなく、平常心ではないことを伝える方法やエンタテインメントとしての利用を想定している。

### 4 さいごに

本稿では婚活パーティなどの出会い支援イベントで感じる不信感を払拭することを目的としたカップリング支援システム **Anemone** を提案した。本システムは参加者双方の生体情報を入力とし、二人の間に設置された花を成長させることで、相手を選ぶ際の参考になることが期待される。今後は開発を続け、実サービスでの利用を目指す。

#### 参考文献

[1] 内閣府 平成 22 年度結婚・家族形成に関する調査報告書 (2016/10/1 確認)。



a)蕾状態

b)開花状態

図 1:Anemone

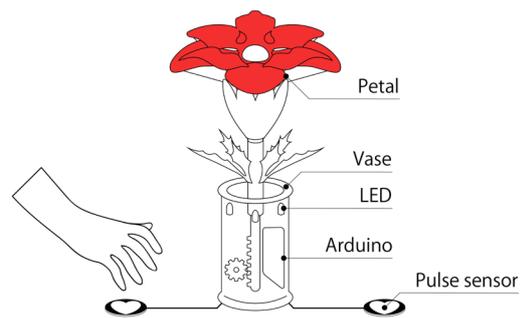


図 3.Anemone システム構成図

[http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa22/marriage\\_family/pdf/zentai/s2\\_1\\_2.pdf](http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa22/marriage_family/pdf/zentai/s2_1_2.pdf)

[2] 平成 22 年度結婚・家族形成に関する調査報告書 (2016/10/1 確認)。

[http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa22/marriage\\_family/pdf/zentai/s2\\_1\\_2.pdf](http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa22/marriage_family/pdf/zentai/s2_1_2.pdf)

[3] 岩本 拓也, 益子 宗, ”心拍変動を用いた出会いの場における不信感払拭支援システム *Lovable Couch*”, *インタラクシオン 2015*, C39, pp.866-871, 2015.

[4] H. Chung, C.-H. J. Lee, and T. Selker: *Lover's cups: drinking interfaces as new communication channels*. *ACM, CHI 2006 extended abstracts on Human factors in computing systems*, pp. 375-380

[5] 沼野 剛志, 北山 史朗, 西本 一志: *NARESOMAKER: 出会いの初期障壁を軽減する第三者介入型友人推薦システム*, *インタラクシオン 2014 論文集*, B3-3, pp.440-445 (2014)